

PHD  
2021

40<sup>th</sup>  
Anniversary



PHD協会40周年記念誌



# 岩村先生の 経験と反省から生まれた PHD協会

生きるとは分かち合うこと、病む者と

岩村昇

ある日、ネパールの山奥の一つの村で病み疲れた一人の老婆が倒れていました。通りかかった一人の旅人が彼女を背負い、三つの山を越え、丸三日間かけて、私たちの病院まで運んでくれました。私がお礼に、お金を差し出しかけたら、彼はそれを拒みました。

そして「いいえ、私はお金はいりません。私は自分に余っている若さと体力を、それをなくしているお婆さんに、長い人生の旅路のたった三日間おすそわけしただけです。みんなで生きるために」。と言って、一文も受け取らずに去って行きました。彼は小学校にも行っていないネパールの普通のお百姓さんでした。

「生きるとは分かち合うこと。我々の恵まれているものの、ほんの10%を、それを必要としている人々と分かち合うこと」。今の世の中で一人の医師として、それ以前に人間として、いかに生きるかというこのメッセージを私は此のネパールの若いお百姓を通して与えられました。私が皆さんと、できる限り多くの人々と分かち合いたいのはこのメッセージなのです。

岩村昇 (PHD協会機関紙「PHD創刊号」、1981年11月)





1981年6月1日、  
PHD協会が  
岩村昇と今井鎮雄によって  
設立される

それから40年、  
草の根の人々と共に歩んだ  
日々を振り返る

40年間、多くの人たちが各々の10%を捧げてきた。

そこに一人ひとりの顔がある。  
あなたが支え、つくってきたPHD運動。

岩村先生は「PHD運動100年構想」を提唱された。  
40年の歩みを振り返り、次の60年へ。

特集

# ネパールとPHD

岩村先生が活動されたPHDの原点の地、  
2015年の大震災、そして不可触民ダリットの人たちとの出会い

岩村先生は1962年から約20年間ネパールで活動された。バクタプールには岩村記念病院が設立されており、その想いを継ぐ人たちも多い。PHD協会は1982年に第1期の研修生としてバラト・ビスタさんを招聘。バラトさんは帰国後、サマ・セワ・サムハというNGOを立ち上げ、クリニックを設立。2010年度の研修生ウルミラさん、2012年度の研修生ランマヤさんが助産師としてクリニックで働き、地域の健康を守っている。ポカラでは第2期生のラダさんが、地域の女性に編み物を教えることを通じて識字教育を行い、その多くを貧困から脱却させた。同じく第2期生のサンバさんは岩村先生の想いを継ぎ、ネパール西部で僻地医療にその生涯を捧げた。

そして2015年4月25日、M7.8のネパール大地震が発生。死者約8,500人、被災者は人口の約30%となる約800万人という甚大な被害を及ぼした。同じく震災を経験した神戸

の地より多くの支援が寄せられ、特にコープこうべの組合員の皆様からは多大なご支援をいただいた。その支援を研修生たちの元に届け、研修生たちが率先してお米などの食料、トタンなどの建築資材をいち早く届けることができた。悲しい形ではあるが、日本での研修の成果を活かすことができた。

震災救援活動の中で「ダリットの人たちが支援から除外されている」という相談が寄せられた。カーストによる差別は公的には廃止されているが、今なお根強く残る。コロナ禍の中でも、最下層にいるがゆえに外出制限の影響を色濃く受け、困窮状態となった。そこでもダリット出身の研修生である2018年度のサビナさん、2019年度のスシラさんが立ち上がり、地域で困っている人たちの元へ駆けつけた。

大地震にコロナ禍、ダリット差別、研修生達の奮闘は続く。



写真右：ネパール大地震被災者支援（元研修生たちと）



# ネパール

Federal Democratic Republic of Nepal



研修生たちの  
報告会動画は  
こちらから  
ご覧ください。



研修生一覧に掲載している年齢は2021年10月現在のものです。

## 【カブレパランチョーク】



パラト・ビスタ

男性・70歳・1期・1982年度

農業（養鶏、果樹）

サマ・セワ・サムハ (SSS) という団体をおこし、その代表として仕事を進める。近年はグリット女性グループへの支援活動を通して、彼らの生活向上に寄与している。



ビシュヌ・アディカリ

男性・2期2班・1983年度

農業（養鶏、養豚）

家族計画協会職員として村人に栄養改善、保健衛生、植林、苗木の配布等、幅広い範囲を指導してきた。その後退職し、農業に取り組む。2018年に逝去。



ビショ・ジョティ・サプコタ

男性・56歳・13期・1995年度

農業（稲作、野菜）

帰国後は来日前と同じく、SSSで事務員として働いた。退職後は地域の他団体で活動。村での農業活動にも積極的。



ビドゥル・ビスタ

男性・49歳・14期・1996年度

農業（稲作、野菜）

地域の生活改善団体SSSのスタッフに復帰し、組織運営を中心に農村を巡回しての指導を行っていたが、現在は米国で生活。



ビショ・ジット・ラマ

男性・34歳・27期・2009年度

農業（稲作、野菜）

村の人に働きかけて立ち上げた農業協同組合で活動。カトマンズガハテ連絡会にも所属し、村と都会の連携をとりもつ。2014年に結婚し、2児の父。現在は横浜在住。



ウルミラ・ライ・ダヌワール

女性・39歳・28期・2010年度

助産、看護、保健衛生

現地NGO、SSSに助産師として勤務。ランマヤさんとともに、24時間体制でお産に対応している。地域では、家族計画、避妊、病気予防の啓発等、幅広く活動に従事。



ミンクマリ・タマン

女性・29歳・28期・2010年度

農業（稲作、野菜）、保健衛生

帰国後に勉強を続け、2013年に助産師の資格を取得。2014年結婚・出産を経て、現在はワルティン村のヘルスポストで助産師として仕事を続けている。



パッサン・ラマ

女性・30歳・29期・2011年度

農業（稲作、野菜）、保健衛生

村の組合で養鶏や野菜などの計画栽培及び販売促進などに積極的に取り組んだ。ネパール大震災時にも、支援活動に奔走。現在は愛媛県で介護福祉士として働く。



ラメシュ・カジ・シュレスタ

男性・36歳・29期・2011年度

農業（養鶏、稲作、野菜）

養鶏に取り組み、鶏舎を風通しが良くなるように改造。一時期海外へ出稼ぎに行っていたが、現在は帰国。震災後は地域フィールドスタッフや養鶏の仕事に取り組む。



ランマヤ・タマン

女性・28歳・30期・2012年度・短期2015年度

保育、保健衛生、農業、協同組合

帰国後は、学校に通い助産師の資格を取得。ネパール大地震後、SSSで助産師として活躍。妊婦さんのケアに大忙し。2019年に結婚、現在は1児（男の子）の母。



アチャンマ・ラマ

男性・27歳・30期・2012年度

農業、協同組合、住民組織化

日本での学びを生かし、農業に従事。カトマンズの学校でも日本語を指導した。その後は韓国へ出稼ぎに。帰国後に村で結婚し、現在は1児（男の子）の父。



プレム・ドジュ・ラマ

男性・46歳・31期・2013年度

農業、協同組合、住民組織化

村で有機農業を精力的に実践し、「農業のプレミアム」と呼ばれる。協同組合の一員として、村人たちに指導。米、ニンニクや玉ねぎ、ビニールハウスでのトマト栽培など様々。



ムク・マヤ・タマン

女性・35歳・32期・2014年度

農業、保健衛生、洋裁、女性の人権

帰国後は村の生活改善のために尽力。現地NGO [SAGUN] のスタッフとして、ネパール大震災時の緊急支援、住民参加型調査、ヤギ肥育プロジェクト運営など活躍中。



カンチ・マヤ・タマン

女性・33歳・33期・2015年度

教育、農業、保健衛生

教育と農業の両方に励む。先生として、地域の小学校やECD（就学前の幼児教育）で指導。生活指導、ネパール語や社会と多岐にわたる。同時に米・野菜作りにも積極的。



スリザナ・シャハ・タクリ

女性・25歳・34期・2016年度

農業、保育、保健衛生

日本で病気の予防や応急処置について学んだ後、ネパールで医療従事者になることを目指して勉強を続けた。その後、日本に再来日。現在は愛知県に住む。



ミスラ・マヤ・タマン

女性・22歳・35期・2017年度

農業、洋裁、幼児、保健衛生

「農業を使わない農業」が目標。帰国後は、トウモロコシ栽培や牛の飼育に励む。日々欠かせない牛の草取り/運びは大仕事。日本語能力も高く、現在も勉強を継続中。



サビナ・ビスンケ・ラムテル

女性・23歳・36期・2018年度

女性の人権、保育、保健衛生、口腔衛生

家の農業を手伝いながら、ハラバラ（村の女性グループ）での活動を継続。リーダーとして、子どもたちへの歯磨き指導、村の母親たちへの識字教育などを積極的に実施。



スシラ・バセル・サルキ

女性・25歳・37期・2019年度

農業、保健衛生、女性の権利

農業への想いが強く、米・野菜作りに加え、果物栽培にも挑戦中。36期生サビナさんとハラバラの活動を支援している。コロナ禍のグリット緊急支援も献身的に取り組む。

### 【ボカラ】



ラダ・デビ・バンストーラ

女性・76歳・2期1班・1983年度

編物、洋裁

編物グループを結成し、仕事のない女性の収入向上を長い間サポートしてきた。自身でセーターも作っている。近年はコロナや健康面の不安もあり、外出の機会も減少。



サビトリ・シュレスト

女性・52歳・15期・1997年度

保健衛生、編物、洋裁

ラダさんの編物グループのメンバー。主に日本語学校の先生や海外NGOのボランティアに積極的に助んできた。近年は日本語学校の増加で生徒数の維持が難しい。



サビトリ・バストーラ

女性・42歳・16期・1998年度

保健衛生、編物、洋裁

ラダさんの編物グループのメンバーとして。布製品や手工芸品を作った。結婚し、先に渡米していた夫のもとへ2013年移住。現在はメリーランド州ボルティモアで生活している。

### 短期研修生



クンジュ・マヤ・タマン

女性・2014年度

人権・農業・保健衛生

### 【カトマンズ/パタン】



ビレンドラ・アマティア

男性・64歳・1期・1982年度

農業（養鶏、野菜）

帰国後は養鶏を行ってきた後、癌学会や結核予防会で監理者としても従事。現在は、家業である菜屋も運営しながら、癌患者のカウンセリングを行う。



スリジャナ・サヒー

女性・72歳・2期1班・1983年度

編物、手工芸

カトマンズ、ドカトール地区でマザーズクラブという女性の団体で手工芸づくりを中心に活動してきた。



ニーラム・ガウチャン

男性・64歳・3期・1985年度

保健（指圧、栄養、大豆加工）

ボランティアとして結核予防指導等を行う。大学院を修了し、教育・福祉関係の仕事に携わる。



ショーバナ・シュレスト

女性・59歳・3期・1985年度

編物、洋裁

帰国後スラム地区の女性の生活改善のために洋裁、編物の指導を行った後、結婚。現在は兵庫県に住む。

### 【ダイレク】



サンバ・カヤスタ

男性・2期1班・1983年度

保健（指圧、リハビリ、臨床検査）

ネパール西部ダイレクにCommunity Health Development Programという団体を設立、農山村の人々に保健衛生、結核予防指導等を行ってきたが、2009年2月に逝去。

### 海外研修生・短期研修生一覧

# フィリピン

Republic of the Philippines

研修生たちの  
報告会動画は  
こちらから  
ご覧ください。



### 【ラグナ州】



コンラド・パニサレス

男性・1期・1982年度

淡水魚

ラグナ湖のほとりで淡水魚養殖場の現場主任として後進の指導にあたってきたが、2001年逝去。



マノリト・ロサーナさん

男性・66歳・1期・1982年度

農業（稲作）、畜産

1984年に結婚。養豚、アヒルの飼育、家畜のエサの組合運営にも関わる。



ウィルフレド・ラニブ（ウィリー）

男性・62歳・2期2班・1983年度

農業（果樹、野菜）

自営で農業をした後、1987年から国際稲研究所（IRRI）の職員となった。地域の住民活動に積極的に参加。



レネ・ブリズ

男性・61歳・2期2班・1983年度

農業（果樹、野菜）

政府のプロジェクト地で土地を借り、果樹中心の農業を行う。バナナ、ランブータン、ココナツ、シトラス等を栽培。

### 【ネグロス西州オリンガオ】



ドミナードル・ヒロゴ（ドミン）

男性・57歳・7期・1989年度

農業（土壌改良、野菜、野鍛冶）

農業と家畜の飼育をし、土地改革委員会や農業協同組合など地域のために活動してきた。兄宅を訪問後、コロナ禍で帰村できず、兄の家に住み農業をしている。



ネストール・セルバンド

男性・57歳・8期1班・1990年度

農業（果樹）、養鶏

自給を重視した農業と地域や教会の委員会での活動を続けてきた。村の農業・漁業委員会のメンバーで、村・市・州の同委員会でも委員長や監査人などを歴任。



ジャネット・パテルナ

女性・50歳・9期・1991年度

保健、栄養、保育

マニラへ移り1994年に結婚。野菜作り、おかずの調理販売をする。現在は地区のヘルスワーカーとして週3日程家庭訪問をして健康調査などを行う。

【ヌエバエシーハ州ガバルドン】



マキシミニオ・トレド (ミノ)

男性・54歳・14期・1996年度

農業 (稲作、野菜)

日本での経験を活かし、稲作、野菜栽培、水牛や鶏の飼育に取り組む。現在は村の警備隊員として治安を守り、豚の飼育とサイインゲン栽培をしている。6児の父。



エドアルド・アコスタ (エディ)

男性・68歳・17期・1999年度

農業 (稲作、野菜)、養鶏

米、野菜等の有機栽培やくん炭づくり、水牛の飼育に取り組み、灌漑組合のリーダーや村の裁判所での役も担う。農業者グループの農業委員長として有機農業の普及に努めている。

短期研修生

フランクリン・ファーマン

男性・1985年度

淡水魚

ヘスス・アルザガ

男性・1991年度

農業

オリンピア・トレド (ヨリー)

女性・1993年度

保健



アレハンドロ・スミブカイ・パナ (アンディ)

男性・48歳・21期・2003年度

農業 (稲作、野菜)、養鶏

米の有機栽培に取り組み、有機肥料の作り方などを地域の人に伝える。農業コンサルタント、有機農園スタッフ等を経て、現在政府機関のプログラムで地域農民への稲作研修や指導を担当。



ハイディ・マルセロ・マリアーノ

女性・41歳・22期・2004年度

農業、保健衛生、食品加工

SAFRUDI (NGO) が支援する村の住民組織で、栄養、保健、有機農業、手工芸品生産、小規模融資などの活動を行う。2008年からは同団体のヌエバエシーハ州担当スタッフ。



ロナルド・ザモラ・モラレス

男性・43歳・23期・2005年度

農業 (稲作、野菜)

住民組織での活動と農業に従事した後、ケソン農業学校で約8年間教鞭をとる。現在は村に戻り、ヌエバエシーハ科学技術大学の教員。農業者グループでは有機米の栽培や有機農業の研修を実施。

サミュエル・ラミレス・デオカレス (サミー)

男性・2004年度

農業、食品加工

ジェシカ・グロスベ・アレハンドロ

女性・2004年度

農業、食品加工

海外研修生・短期研修生一覧

タイ

Kingdom of Thailand

研修生たちの  
報告会動画は  
こちらから  
ご覧ください。



メーホンソン県メーサリアン・チェンマイ県

カラシン県サイナワン

タイ王国

バンコク

【メーホンソン県メーサリアン】



プリチャー・ムアンチャン

男性・58歳・3期・1985年度・短期1994年度

農業 (稲作、野菜)、畜産

ムシキーの学校で約10年農業を教える。生まれ故郷メーサリアンに戻り、ガソリンスタンドと食料・日用雑貨店を経営。店では山の村の人たちを雇用し、生活向上を支援する。



サワン・ナンタポーリス

男性・58歳・16期・1998年度

農業 (野菜)、養鶏、養豚

農業の合間にしていた象使いや自動車修理の仕事を辞め、米や野菜を有機栽培し販売。現在は農業を中心に牛30頭を飼育。今後は自給のための農業に専念する予定。



アンポン・クルワン

男性・48歳・15期・1997年度

農業 (野菜)、養鶏、淡水魚養殖

農業、養鶏、養豚をしながら、農業資材を販売する店を開く。近年は店に加えて大型運搬用トラックを購入し農産物や道路建設用の石や砂利の運搬業も営む。



ポーディ・ファイサップディー

女性・43歳・17期・1999年度

保健衛生、洋裁

手織り布のグループでの活動強化を中心に生活改善に取り組んだが、家計を支えるためにチェンマイで家政婦の仕事についた。結婚し、現在もチェンマイ在住。



プラチャック・ムアンチャン

男性・45歳・16期・1998年度

農業 (野菜)、養鶏、養豚

結婚し、メーサリアンから妻の村 (ムシキー) へ移った。主に自給用の米と野菜を無農薬で栽培。庭で鶏や豚を育て、日用雑貨や食料品を販売する店を営む。



プンシー・プチャレクライワン

女性・41歳・18期・2000年度

保健衛生、洋裁

手織り布のグループで活動。数年間夫と出稼ぎに行っていたが、現在は両親の住むライ村で家族と共に米や大豆を栽培し、農作業の合間に刺繍をしている。



ナロンデッ・カムヌーンパナドーン

男性・40歳・19期・2001年度

農業 (稲作、野菜)、養鶏

農業の傍ら、村からバイクで6時間の山の村で農業とタイ語を教えたり、図書館のない学校を車で回る移動図書館の仕事などに従事。2021年2月から県議会議員を務める。



スラチ・パティスティクン

男性・48歳・20期・2002年度

農業 (稲作、野菜)、養鶏

有機農業の実践や村人への普及に取り組んだ。農閑期には大工仕事もする。近年は山の村で精米業を始め、ペー村と山の村を行き来しながら稲作をする生活。

### 【チェンマイ県ボケオ】



ベリア・スティダ

女性・58歳・4期・1986年度

保健衛生、洋裁

タイカレンバプティスト会議 (TKBC) に勤務するかたわら、週末には山村に出かけ生活改善指導を実施。結婚して数年後、TKBCを退職しミャンマーへ移住。



ウィラット・ソンセン

男性・4期・1986年度

農業 (野菜)、畜産

村での農業の他、農業指導センターの講師を務めるなど日本で学んだ技術の普及に努めた。近年はバンコクの企業に勤務していたが、2年程前に逝去。



プラカシィ・コマ

男性・57歳・5期・1987年度

農業 (野菜)、畜産

宗教、国籍、民族を問わず村の住民が誰でも利用できるトレーニングセンターでマネージャーを務める。センターでは農民、女性、青年グループへの研修や奨学金事業を実施。

### 【チェンマイ県ムシキー】



ベリポー

女性・54歳・短期1991年度・17期・1999年度

洋裁、保健衛生

環境NGOに勤めるアメリカ人と結婚。夫の勤務地に伴ってアジア各地を転々とし、年に一度は実家に帰省。コロナ禍の現在はアメリカ在住。



ポーディーヤ

女性・53歳・24期・2006年度

洋裁、保健衛生

帰国後ミシンを購入し、手織り布グループの集会小屋に置きメンバーに使い方を教え、加工品の製作・販売が可能になった。近年は有機農業にも力を入れている。



チャユー

男性・51歳・25期・2007年度

農業、保健衛生、栄養

農業や養鶏に取り組みながら、地域の保健ボランティアとして長年村びとたちの健康を守ってきた。近年は国境沿いの山岳民族の支援に重点を置いて活動している。

### 【チェンマイ県ホイボン】



モレチャ・スラデ

男性・58歳・26期・2008年度

農業、保健衛生、栄養

海外からの支援を受けて、村の幼稚園と学生寮を運営。村人にも開発についての研修を実施してきた。牧師として地域に尽くしている。

### 【カラシン県サイナワン】



ワラヤ・ジジジョン (現姓: ポンナク)

女性・56歳・6期1班・1988年度

農業 (野菜)、畜産、淡水魚養殖

グループで養豚や肥料づくりの活動をしながら農業を営んでいたが、2005年にバンコク郊外の小学校教員になった。現在3、5、6年生を担当。



サンコム (現: タンヤーパット) ・スィーチャロン

男性・56歳・7期・1989年度

農業 (稲作)、畜産

村での活動後バンコクのNGOでスラム住民の生活改善に取り組む。他団体での活動を経て、近年は住宅関係の地域調査員をしている。現在バンコク在住。



サウェー (現: チューキアット) ・ムアンチャン

男性・63歳・9期・1991年度

農業 (稲作)、畜産

田んぼでの協同作業を行う農民グループを組織。稲作、野菜の栽培、養鶏、養豚、牛の飼育に取り組んだ。農閑期には大工仕事も。現在は家族で稲作を営む。



ノパドン・カヨムドッ

男性・45歳・18期・2000年度

農業 (稲作、野菜)、養鶏、農機修理

野菜の有機栽培に取り組み、農機具修理技術の普及に努める。2003年に結婚し、現在は稲作のかたわら夫婦でケータリングや弁当の販売をする。



ケユーン (現: ケーサー) ・カヨータ

男性・49歳・19期・2001年度

農業 (稲作、野菜)、養鶏、農機修理

米、野菜に加え、淡水魚の養殖に取り組み、グループで牛の飼育に携わってきた。現在は稲作と牛の飼育、所有する耕運機で耕運の請負をしている。

### 短期研修生

バムルン・カヨータ

1989年度・男性

農業

トンスク・チョンプラート

男性・1991年度

農業

チャラムサック・カッティア

男性・1993年度

農業

シューキャ・ムアンチャン

男性・2006年度

農業



# インドネシアとPHD

PHD研修事業の成功地域、  
タベ村から始まり、周辺地域に拡大。  
研修生たちが地域で活躍中

インドネシアでは、海の村と山の村と交流を続けてきた。1986年から96年までの約10年間は海の村からの招聘を行う。2004年のスマトラ沖地震では、被害にあった漁村パシルバルーの幼稚園とモスクの補修など支援活動を行うことができた。

そして1999年からは山の村へ。当時、インドネシアには村毎に貧困レベルが設定されており、中でも貧困度が高かったタベ村から招聘を行うことになった。当時、日本に来た研修生は「ここは夢の世界か」と日本と自分の村の差異に驚愕したと言う。それから20年、タベ村は母系社会であるミナカバウ文化を大切にしつつ、急激な発展を遂げた。その中心に研修生達がいる。

成功地域の要因はいくつもある。一つには日本での研修成果を地域に還元し、根付かせたこと。例えば手洗い、水道の整備、母子手帳の活用など数多ある。次にタベ村だけでなく、近隣の村へも影響を及ぼしたこと。2004年の研修生アフリタさんはタベ村で学んだ保育園を自分の村にも作った。そして、なによりそれを成し遂げたのは研修生、村人自身である、ということだ。PHDはもちろん、現地NGOが手助けした訳ではない。よって訪問時には「この成果を見てくれ」と誇らしげに語ってくれる。まさに岩村先生が言われた「忘れられる援助」(P.46)が体現できたのがタベ村だと言える。

近年はその成果が、村中を巻き込んだ「健康コンテスト」になり、貧困者のための「牛銀行」、コロナ禍の中で勉学に影響が出た子どもたちのための「Misタベ小学校奨学金」プロジェクトという実を結んだ。「牛銀行」と「奨学金」は篠山ロータリークラブのご支援によって実現した。この場を借りてお礼申し上げたい。



保育園での歯磨き指導



健康コンテスト(2019年7月)

# インドネシア

Republic of Indonesia



研修生たちの  
報告会動画は  
こちらから  
ご覧ください。



## 【パダン】



ユリ タムリン

男性・58歳・4期・1986年度・短期1992年度

漁業（漁具・漁法）

西スマトラ漁業振興社に勤務。漁村を巡回し、西スマトラ全域の漁師の組織化と技術指導を行う。

## 【パシルバルー】



アリ ムルティム

男性・57歳・5期・1987年度

漁業・協同組合

漁業組合を組織する。岸壁整備、道路整備、製氷工場、市場の整備などを行う。2011年村長に選ばれたが現在は村長職を満了し協同組合のマネージャーとして働く。



サムスアリス

男性・69歳・8期2班・1990年度

漁業（漁法・加工・協同組合）

漁に出る傍ら、村の漁業組合にも貢献。最近では漁業から退き協同組合でガスとガンソンの仕事に従事する。



セニフィタ

女性・48歳・10期・1992年度

保健衛生・栄養・洋裁

休園していた村の幼稚園を再開、そこで先生をしながら母親達に衛生と栄養の指導にあたる。現在は大型衣料店で商売の傍ら、婦人会でコーランの指導をする。



ハスマヤニ

女性・48歳・10期・1992年度

保健衛生・栄養・洋裁

村の女性に保健衛生や栄養について伝える。村の幼稚園運営や教育に尽力。現在は小学校教諭をしながら他校の先生達のマネージメントや指導法にも力を注ぐ。

## 【アイルバンギス】



アフナーール

男性・58歳・6期1班・1988年度・短期2016年度

漁業

帰国後、日本語を磨き大学で日本語の指導と共に日本との連絡調整の役割を果たす。現在は家族とリアウに在住、日本語は相変わらず堪能である。



ハスリ ペディ

男性・57歳・6期2班・1988年度

漁業

村に戻り、日本での研修内容を地域に伝え、その後妻の実家の食堂を経営、現在に至る。



モハメド ファイジン

男性・58歳・6期2班・1988年度

漁業

村に戻り、漁業に従事してきた。その後ジャカルタのプカシに移り、現在はタンゲランに在住。



ラディア エリタ

女性・48歳・12期・1994年度

保健衛生・栄養・洋裁

現地の大学で日本語を磨き、日本語教師に。2011年春まで岡山大学の修士課程で学び帰国。現在はアンダラス大学で日本語の教鞭を取る。



ウビ タンジュン

女性・49歳・14期・1996年度

保健衛生・栄養・洋裁

日本での研修内容を現地に伝え、生活改善に取り組んでいる。結婚後メダンに移り、現在もメダンに在住。

## 【タランバング】



ダスウィル

男性・51歳・17期・1999年度・短期2018年度

農業・協同組合

この地域の研修生のまとめ役。有機農業を実践する。行政からの支援を引き出し、学校、幼稚園、道路整備も行う。コロナ以降は唐辛子栽培にも力を注ぐ。



アフダール

男性・52歳・18期・2000年度

農業・協同組合

帰国後、村長に選任されイスラム学校の建設、道路整備、税金の徴収率の向上に力を注ぐ。現在は村長職を満了し、椰子畑の経営を模索中。



アルウィ ファドリ

男性・48歳・19期・2001年度

農業・協同組合

堆肥を作り、有機農業を精力的に実践。また農業用水路の整備、村のための活動を行う。イスラム指導者としての信頼が厚く、農業の傍ら子ども達にコーランを教え解く。



ダルミアティス（ミミ）

女性・50歳・20期・2002年度

保健衛生・栄養・洋裁

帰国後、幼稚園や役場で手腕を発揮し多忙な日々を送る。母子保健や幼児教育の活動も活発に行っている。組合活動は州から表彰を受けた。



エルリナ（エリ）

女性・47歳・21期・2003年度

保健衛生・栄養・洋裁

洋裁技術への評価は非常に高く、村での洋裁の仕事を引き受け、後輩研修生にも仕事の機会を提供している。自宅では牛や鶏も飼う。夫は協同組合のリーダー。



アフリタ

女性・36歳・22期・2004年度

保健衛生・栄養・洋裁

帰国後、村の幼稚園で教鞭を取りながら、母子保健や婦人会で他の研修生とも活動する。現在も幼稚園の教師として活躍中。



マスラル アリゾン

男性・47歳・23期・2005年度・短期2018年度

農業・協同組合

有機農業の実践をしながら、村の道路や灌漑整備などの活動をしている。資金は政府から、労働力は村から。現在は村のリーダーとして、新しいモスク建設に力を注ぐ。



プットラ

男性・24期・2006年度

農業・住民組織化

帰国後、牛を飼い、農業に取り組んでいたが2008年に大腸癌が見つかり手術。魚の養殖なども行っていたが、2009年11月に逝去。



ヘルマ イエニ

女性・25期・2007年度

洋裁・保健衛生・栄養

村で幼稚園を作るなど精力的に活動していたが、結婚後は村を移り、保健活動やコーラン指導に従事。2020年に脳に腫瘍が見つかり、2021年2月に逝去。



ペリスマン

男性・40歳・26期・2008年度

農業・保健衛生・栄養

米、サトウキビを中心に有機農業を実践。大工の腕も磨き、仕事も多い。村の青年グループのリーダーとして村のために活動する。



ロザ ノフェルマ

女性・32歳・27期・2009年度

洋裁・保健衛生・栄養

村の幼稚園の運営及び先生をしながら、衛生や規律などの就学前教育を実践。洋裁の腕もいい。現在は村の協同組合で仕事をしている。



グスティア インドラ

男性・40歳・28期・2010年度

農業・保健衛生・住民組織化

帰国後、村の人々に働きかけ農業協同組合を作り、事務局を担当、村のほぼ全世帯が加入。農業用灌漑の整備、有機農業の普及にも尽力する。



エリザ フィトリ

女性・32歳・29期・2011年度

洋裁・保健衛生・栄養

帰国後洋裁のグループを作り技術指導。現在は幼稚園の教師をする傍ら、カデール（母子保健プログラムのボランティアワーカー）としても活躍中。



アドリザル (デリ)

男性・46歳・30期・2012年度

有機農業・保健衛生・協同組合

帰国後、米や野菜作りをしながら牛舎作りに取り組む。現在はジャカルタ近郊のポゴールで就業中。



ダリスマン

男性・29歳・31期・2013年度

有機農業・保健衛生・協同組合

肥料作りに取り組み、玉ねぎ栽培に力を注ぐ。牛を購入し飼育した経験も。現在は玉ねぎの他に稲作にも取り組んでいる。



メラティ アフリダ

女性・42歳・32期・2014年度

保健衛生・洋裁・協同組合

母子保健プログラム「ボシアンドゥ」でボランティアを続け、日本で研修した口腔衛生の普及に力を注ぐ。帰国後はミシンも購入し、洋裁にも励む。



シャフルル (ゾン)

男性・41歳・33期・2015年度

有機農業・養鶏・協同組合

有機農業を中心として養鶏や魚の養殖にも関心が高く、現在は鶏を飼いその繁殖に力を入れている。



リンダ エルニタ

女性・27歳・34期・2016年度・短期2018年度

保育・洋裁・保健衛生

幼い子どもを残して研修生として覚悟の来日。保健衛生の研修で得た学びを生かして現在は農業の傍ら村のカデール（母子保健プログラムのボランティアワーカー）として活躍。



マリア シルヴィアナ デフィ

女性・31歳・35期・2017年度

教育・保健衛生・協同組合

帰国後、故アイニスマール校長の遺志を継ぐべく、イスラム系小学校の教師として奮闘。特に日本語教育に力を注いでいる。



レニ グスティカ

女性・26歳・36期・2018年度

保健衛生・口腔衛生・教育

帰国後、地域の村で日本で学んだ口腔衛生の普及に努める他、家族計画の母子保健プログラムでも活躍。2019年結婚。



プットリ ダリア

女性・24歳・37期・2019年度

洋裁・保健衛生・保育

日本で型紙起こしから縫製までの全過程を習得し、帰国後も洋裁の仕事を生かしながら母子保健ボランティアで村の家族計画問題に取り組む。2021年結婚。

## 短期研修生



アイニスマール (ニニス)

女性・短期・2015年度

環境教育

村ではイスラム系小学校の校長として活躍。同校では初の村出身の女性校長。日本での学校教育を学ぶべく来日、帰国後も実践に情熱を燃やしたが病に倒れ2017年6月逝去。

# スリランカ

Democratic Socialist Republic of Sri Lanka



# パプアニューギニア

Independent State of Papua New Guinea



研修生たちの  
報告会動画は  
こちらから  
ご覧ください。



## 【クルネーガラ県ボヤワラーナ】



ランジット・ジャヤンタ

男性・59歳・4期・1986年度

農業（稲作、畜産）

一時期村を出ていたが、数年前に村に戻る。現在は農業や花の栽培、金魚の養殖などに取り組みながら生計を立てている。



ニーラカンティ・ジャヤコディ

女性・58歳・5期・1987年度

洋裁、手工芸、保健（公衆衛生）

公立中学校の教師で、英語の他に裁縫や日本で学んだことを伝えている。製材業に励む夫と3人の子どもがいる。現在はガンパハ県在住。



アジャンタ・プレマラール

男性・53歳・6期1班・1988年度

農業（稲作、畜産、協同組合）、教育

農業グループでの活動を経て、2002年より土木や建設機械の輸出入と作業請負に携わる。研修生の時に教育の大切さを学び、母国に学校を建設する夢を持つ。



ナンダナ・ペマシリ

男性・50歳・9期・1991年度

農業（稲作、畜産、農機）

父親や村長さんから土地を譲り受け、農業に従事。米やココナッツ、バナナ等を栽培して生計を立てる。自分の農地以外で稲刈りや田植えの手伝いも行う。



シャーンタ・ラル・パティラジャ

男性・10期・1992年度

農業（養鶏、稲作）

6年前の結婚を機に村を離れ、ダンコトゥワへ移住。土地を買って農業に取り組み、米、野菜、果物と幅広く栽培してきた。2021年7月に逝去。

## 短期研修生

チャールス・アビクーン

男性・1987年度

農業

## 【レイ】



トニー・ヨーケ

男性・58歳・7期・1990年度

農業（野菜・畜産）、淡水魚

ルーテル教会が運営する団体LDSの指導員として赴任地で住民への農業、保健衛生面での指導にあたる。

## 【フィンジャーフェン】



ヘルペ・ヨーウ

男性・8期1班・1990年度

農業（野菜・畜産・農機）

LDSの青年農業センターの指導員として地域の農業復興とグループの組織化を進めてきたが、11年夏から契約職員に。退職後は、地域で多くの活動に携わり、2019年に舌癌で逝去。



レル・サパ

男性・8期1班・1990年度

農業（野菜・養鶏・炭焼き）

野菜を中心としたモデル農業を展開し、村人に日本で学んだ知識、技術を普及し農業グループの組織化を図ったが、03年にぜん息で逝去。



ラニー・サイロン

女性・55歳・9期・1991年度

農業（養鶏・野菜）、洋裁、栄養

農業の知識、技術の普及を行い、女性グループに洋裁、栄養のプログラムを実施し、生活改善を模索して活動中。



ワニ・ソミ

男性・60歳・15期・1997年度

農業（野菜・養鶏・炭焼き）

山奥の村に戻り、LDSが展開する農業振興事業に協力し、野菜を中心とした農業に取り組む。



ハリエオ・ゲオバ

男性・62歳・15期・1997年度

農業（野菜・養鶏・炭焼き）

農業知識、技術を自分の畑で実践し、出身地域の人への指導に努める。農業グループを組織し、米、野菜を作る。精米所も運営。



ゲオリ・カピン

女性・53歳・16期・1998年度

農業、保健衛生

農業知識、技術を自分の畑で実践し、また、地域の女性への啓蒙に力を入れている。



リンダ・アニス

女性・43歳・18期・2000年度

保健衛生、栄養、洋裁、農業

村に戻り農業とともに保健衛生の知識の普及に取り組む。結婚し町に移る。



シコン・ドン

女性・43歳・19期・2001年度

農業、保健衛生、洋裁

農業に加え裁縫を行う。一時学校の先生。教員退職後、村で生活改善に取り組む。

短期研修生

ベノ・カメオ

男性・1994年度

森林保全

海外研修生・短期研修生一覧

韓国

Republic of Korea



【忠清南道】



李 長燮

男性・60歳・9期・1991年度

協同組合、組織運営

有機農業を実践しながら、地域の農民と地域共同体の活動を展開。

短期研修生

崔 成鳳

短期・1990年度

崔 龍煥

短期・1990年度

申 楠均

短期・1990年度

李 錫重

短期・1990年度

崔 相業

短期・1991年度

崔 南植

短期・1991年度

金 奎植

短期・1991年度

李 雄培

短期・1991年度

姜 秦恒

短期・1991年度

曾 東煥

短期・1991年度

洪 淳明

短期・1992年度

金 東潤

短期・1992年度

李 東俊

短期・1992年度

朱 亨魯

短期・1992年度

鄭 双恩

短期・1992年度

卞 煥榮

短期・1992年度

金 福寬

短期・1993年度

吳 英南

短期・1993年度

黃 昌益

短期・1993年度

韓 敏傳

短期・1993年度

卞 熙吉

短期・1993年度

梁 東國

短期・1993年度

趙 在弘

短期・1994年度

孔 基永

短期・1994年度

李 炯坤

短期・1994年度

田 正秀

短期・1994年度

李 東玉

短期・1994年度

李 厚根

短期・1994年度

田 繁榮

短期・1994年度

金 貞徳

短期・1996年度

金 玉芬

短期・1996年度

朱 銀順

短期・1996年度

李 秀蘭

短期・1996年度

李 在分

短期・1996年度

金 聖淳

短期・1997年度

林 承八

短期・1997年度

朴 鐘九

短期・1997年度

鄭 一眠

短期・1997年度

金 東福

短期・1997年度

李 起陽

短期・1997年度

金 英源

短期・1998年度

金 源模

短期・1998年度

金 平煥

短期・1998年度

陳 演春

短期・1998年度

金 重鎬

短期・1998年度

張 英淳

短期・1998年度

李 賢淑

短期・1999年度

吳 明淑

短期・1999年度

金 明順

短期・1999年度

吳 美廷

短期・1999年度

宋 寅愛

短期・1999年度

洪 淳明

短期・2000年度

權 秦五

短期・2000年度

李 宰郁

短期・2000年度

金 玉姫

短期・2000年度

安 貞順

短期・2000年度

鄭 旻哲

短期・2000年度

朱 珽培

短期・2002年度

丁 海日

短期・2002年度

黃 圭相

短期・2002年度

曹 惠真

短期・2002年度

林 承八

短期・2003年度

崔 敬烈

短期・2003年度

徐 廷姬

短期・2003年度

卜 箕凰

短期・2003年度

李 盛源

短期・2003年度

特集

# ミャンマーとPHD

軍事政権下の苦難の中、招聘を継続してきた。  
しかし、2021年再度軍事クーデター勃発。  
PHDはこれからもミャンマーと共に

ミャンマーの情勢上、  
研修生の安全のために  
ぼかしをいれています。



ミャンマーの情勢上、  
研修生の安全のために  
ぼかしをいれています。

ミャンマーの情勢上、  
研修生の安全のために  
ぼかしをいれています。



# カンボジア

Kingdom of Cambodia



## 【プノンベン】



スム・ソコム

男性・57歳・11期・1993年度

農業 (稲作・養鶏)

農業省の役人として、日本での研修をいかしてきた。現在は土壌改良の担当。しばらく養鶏にも取り組んだが採算がとれず休止。

## 【プレイカバス】



チル・カエウ

女性・49歳・13期・1995年度

保健衛生

村で外国のNGOの保健指導員として活動をしている。一時期は日本のNGOにも属した。

## 【バティ】



ノップ・ヴァナ

男性・48歳・11期・1993年度

農業 (稲作・養鶏)

稲作、野菜、養鶏を中心とした農業を通じて、日本の経験を村人に伝えている。

# ソロモン諸島

Solomon Islands



## 【アノナキナキ】



ルーク・スイファシア

男性・48歳・12期・1994年度

農業 (野菜・養鶏)

村の青年たちと協力して農業改良普及に取り組んだ後、聖フランシスコ会の修道士として活動。

# 国内(日本)

Japan

研修生たちの  
報告会動画は  
こちらから  
ご覧ください。



ナン ミミ ポー イ ゼン

25歳・1期・2021年度

製菓+マネジメント、ソーシャルワーク、ゴミ処理

ミャンマーのエーヤワディ地方域出身で、2020年10月末に留学生として来日。PHDでの学びを自民族カレンの支援に繋がりたいと意欲的。



ソー アロン

25歳・1期・2021年度

サッカー指導、動画作成・編集・発信

ナンミミさんと同じく2020年10月末に来日。ミャンマーのカレン州出身で、これまでの歴史や現況に対して周囲への発信を進めていく。



田村 華奈

23期・2021年度



松浦 あおい

23期・2021年度



合田 ひな

23期・2021年度



横原 杏菜

22期・2019年度



遠藤 響子

21期・2018年度



原田 梨央

短期・2017年度



成田 航輝

23期・2021年度



佐藤 里紗

23期・2021年度



山本 仁美

22期・2019年度



清水 悠加

21期・2018年度



吉村 芙優

20期・2017年度



近藤 涼子

短期・2017年度



大倉 梨花

19期・2016年度



吉川 美華

18期・2014年度



吉田 宣子

15期・2011年度



酒井 仁美

12期・2007年度



鴨川 佳枝

7期・2002年度



谷 朱子

2期・1995年度



加藤 志歩

19期・2016年度



石川 裕美

17期・2013年度



岸本 侑子

15期・2011年度



上田 浩代

11期・2006年度



菅間 郁子

6期・2001年度



宮田 早夏

1期・1995年度



宮井 彩生

短期・2016年度



本田 愛

17期・2013年度



松田 洋子

14期・2010年度



坂本 由美

10期・2005年度



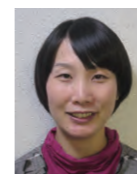
納堂 邦弘

5期・1999年度



中川 結理

短期・2015年度



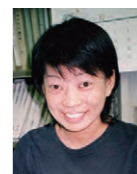
安本 真理子

16期・2012年度



鶴谷 賢彦

14期・2010年度



佐藤 栄利子

9期・2004年度



鬼木 たまみ

4期・1998年度



工藤 成美

18期・2014年度



藤原 峻悟

16期・2012年度



木下 和麿

13期・2008年度



坂西 卓郎

8期・2003年度



奥西 真幸

3期・1997年度

# これまでの歩み

## 草創期

岩村医師の想いに今井先生が賛同し、産声を上げる。草地総理事が着任し、国際協力NGOとして歩み出す。

# 1981～

1981

- ・岩村昇博士が第1回ロータリー国際理解賞を受賞、授賞式の際にPHD運動を提唱、任意団体PHD協会を設立
- ・募金受付開始
- ・国際ボランティア兵庫県民シンポジウム開催
- ・アジア・スタディツアー開始

1982

- ・専従職員採用
- ・会報「PHD LETTER」発刊
- ・財団法人PHD財団を設立、初代理事長に今井鎮雄氏が就任
- ・第一期研修生来日
- ・たんば農文塾にて研修生たちの合宿開始

1期・1982年度
バラト・ピスタ(ネパール)
ビレンドラ・アマティア(ネパール)
マノリト・ロサーナ(フィリピン)
コンラド・パニサレス(フィリピン)

1983

- ・会員制度発足
- ・「財団法人PHD財団」と「任意団体PHD協会」を一本化し、財団法人PHD協会になる

2期1班・1983年度
ラダ・パンストーラ(ネパール)
スリジャナ・サヒー(ネパール)
サンバカヤスタ(ネパール)

2期2班・1983年度
ビシュヌ・アディカリ(ネパール)
ウィルフレド・ラニア(フィリピン)
レネ・プリズ(フィリピン)

1984

- ・試験研究法人(現:特定公益増進法人)の認定を受ける
- ・評議員会発足

1985

- ・新ロゴマーク採用
- ・農文塾合宿を草の根生活塾に改称
- ・短期中堅指導者招聘開始
- ・東日本研修旅行を本格的に開始
- ・研修生指導者海外短期派遣開始
- ・国際ロータリー米山記念奨学生に初めてなる。

3期・1985年度
ニールム・ガウチャン(ネパール)
ショーパー・シュレスタ(ネパール)
プリチャー・ムアンチャン(タイ)

1986

- ・西日本研修旅行開始
- ・神戸NGO懇談会に参加
- ・「KOBE発アジア」刊行
- ・生活の中の国際を考える「オールナイト・トーキング・セッション」開催
- ・フィリピン比較研修旅行開始

4期・1986年度
ウィラット・ソンセン(タイ)
ペリア・スティダ(タイ)
ユリ・タムリン(インドネシア)
ランジット・ジャヤンタ(スリランカ)

1987

- ・事務所を同じ中央区元町通内で移転
- ・関西国際協力協議会に参加
- ・韓国比較研修旅行開始(～至2003年度)

5期・1987年度
プラカシ・コマ(タイ)
アリ・ムルティム(インドネシア)
ニールカンティ・ジャヤコディ(スリランカ)

1988

- ・「ターブルカレンの人々」刊行
- ・農業交流団をタイへ派遣

6期1班・1988年度
ワラヤ・ジッジョン(タイ)
アジャンタ・プレマール(スリランカ)
アフナル(インドネシア)

6期2班・1988年度
ハスリ・パディ(インドネシア)
モハメド・ファイジン(インドネシア)

1989

- ・インドネシア舞踏「インドジャティ」来日公演
- ・タイの元研修生が活動する村で手織り布グループ発足

7期・1989年度
サンコム・スイーチャロン(タイ)
ドミナードル・ヒロゴ(フィリピン)
トニー・ヨーケ(ババ・ニューギニア)

### バックナンバー紹介



これまでの歩み  
拡大期

研修生の招聘国は10ヶ国に拡大。阪神淡路大震災発生、ボランティア元年を支える。国内研修生制度も発足。

# 1990～

1990

- ・ボランティアグループ「ソデイ」発足、タイ・カレンの手織り布グループの支援開始
- ・日韓農民交流開始（～2003年度）
- ・第2回「インドジャティ」来日公演
- ・自動車総連から初めて支援を受ける

8期1班・1990年度
ネストール・セルバンド(フィリピン)
レル・サバ(バブア・ニューギニア)
ヘルペ・ヨウワ(バブア・ニューギニア)
8期2班・1990年度
サムスアリス(インドネシア)

1991

- ・設立10周年記念事業「マチと南太平洋・アジアとムラをつなぐメドレーセッション」開催

9期・1991年度
サウエー・ムアンチャン(タイ)
ジャネット・パテルナ(フィリピン)
ナンダナ・ベマシリ(スリランカ)
ラニー・サイロン(バブア・ニューギニア)
李 長燮(韓国)

1992

- ・第3回「インドジャティ」来日公演

10期・1992年度
ハスマヤニ(インドネシア)
セニフィタ(インドネシア)
ジャンタル・ラハ(タイジャ(スリランカ)

1993

- ・「アジアの草の根国際交流－PHD協会の実践」刊行
- ・ドイツ・タイ国際協力研修旅行
- ・職員藤野海外研修
- ・岩村先生「マグサイサイ賞」受賞

11期・1993年度
ノップ・ヴァナ(カンボジア)
スム・ソコム(カンボジア)

1994

- ・国連社会開発サミット参加

12期・1994年度
ラディア エリタ(インドネシア)
ルーク・スイフアジア(ソロモン諸島)

1995

- ・国内研修生制度開始
- ・阪神大震災が発生、研修生救援活動に参加後、途中帰国
- ・阪神大震災地元NGO救援連絡会議への支援開始、草地総主事が代表に就任
- ・バブアニューギニアから「レックスバンド」来日、APEC大阪会議「大阪大航海」に参加

13期・1995年度
ピシヨジョティ・サブコタ(ネパール)
チル・カエウ(カンボジア)

1996

- ・国際協力ワークショップ開始
- ・バブアニューギニアからソル・アンソニー・スバム氏来日、交流会開催、神戸の被災地を見学

14期・1996年度
ビドゥル・ピスタ(ネパール)
ウピ・タンジュン(インドネシア)
マキシミアノ・トレド(フィリピン)

1997

- ・アーユス仏教国際協力ネットワーク「NGO人材支援事業助成金」を受ける
- ・ミャンマーの漫画家シュエ・ミン・ター氏来日事務所来訪
- ・今井理事長、兵庫県功労者表彰受賞

15期・1997年度
サビトリ・シュレスタ(ネパール)
アンボン・クルワン(タイ)
ワニ・ソミ(バブア・ニューギニア)
ハリエ・ガバ(バブア・ニューギニア)

1998

- ・イギリスからローレンス・テイラー氏を招き「5days workshop」開催
- ・インドの風刺漫画家ビジャイ・セス氏来日、ワークショップ開催。

16期・1998年度
サビトリ・バスターラ(ネパール)
サワン・ナンタボリス(タイ)
プラチャック・ムアンチャン(タイ)
ガオリ・カビン(バブア・ニューギニア)

1999

- ・インドからポール・シロモニ氏を招き「One day workshop」開催
- ・草地賢一元総主事逝去

17期・1999年度
エドアルド・アコスタ(フィリピン)
ポーディ・ファイサブディー(タイ)
ベリボー(タイ)
ダスウィル(インドネシア)

バックナンバー紹介



# 熟成期

大学で国際協力を学んだ職員が増加し、活動を深める。だが、経営面はリーマンショックもあり苦境に。

# 2000～

2000

- ・外務省NGO相談員制度を初めて受託
- ・外務省NGO相談員制度受託開始(～至現在)
- ・インドからジョン・ジョージ氏を招き「One day workshop」開催
- ・アユース仏教国際協力ネットワークから事業評価支援を受ける

18期・2000年度
ブシロー・チャクラライワン(タイ)
ノパドン・カヨムドック(タイ)
アフダール(インドネシア)
リンダ・アニス(ババア・ニューギニア)

2001

- ・設立20周年記念事業開催

19期・2001年度
ナロンテック・カムヌンパドーン(タイ)
ケューン・カコータ(タイ)
アルウィ・フアドリ(インドネシア)
シコンドン(ババア・ニューギニア)

2002

- ・PHD協会ホームページ開設
- ・タイ・カレンの手織り布グループ相互訪問・交流
- ・岡山に支援グループ発足

20期・2002年度
スラチ・パティステイワン(タイ)
ダルミアティス(インドネシア)

2003

- ・元研修生向け「PHD LETTER ひらがな版」作成(～至現在)

21期・2003年度
アバンドロ・スミカイ・パナ(フィリピン)
エルリナ(インドネシア)

2004

- ・JICA兵庫教師海外研修受託開始
- ・関西テレビ青年育成事業団海外研修を受託
- ・連合「愛のカンパ」から初の助成受託

22期・2004年度
ハイディ・マルセロ・マリアーノ(フィリピン)
アフリタ(インドネシア)

2005

- ・岩村昇先生逝去(78歳)、感謝と送別の会開催

23期・2005年度
ロナルド・ザモラ・モラレス(フィリピン)
マスラル・アリゾン(インドネシア)

2006

- ・研修サポーター導入

24期・2006年度
ポーディーヤ(タイ)
スリヤ・ブットラ(インドネシア)

2007

- ・生活協同組合コープこうべとの連携を強化

25期・2007年度
チャュー(タイ)
ヘルマ・イエニ(インドネシア)

2008

- ・「国内問題を考える勉強会 in 釜ヶ崎」実施

26期・2008年度
パリスマン(インドネシア)
モレチャ・スラダ(タイ)

2009

- ・スマトラ島沖地震をうけ研修生招聘地域バシルパルー村の復興支援を行う
- ・ネパールからの研修生招聘再開

27期・2009年度
ロザ・ノフェルマ(インドネシア)
ビショ・ジット・ラマ(ネパール)

## バックナンバー紹介



これまでの歩み  
挑戦期

30年務めた藤野総事代が行が退職。若い職員たちで挑戦を始める。

# 2010～

2010

- ・国内研修生を1名から2名に、期間を半年から1年に変更
- ・生協総研アジア生協協力基金から初の助成受託

2011

- ・設立30周年記念事業開催
- ・公益財団法人の認定を受ける

2012

- ・兵庫県より税額控除対象法人の認可を受ける
- ・協同組合マネジメント研修を開始(～至現在)

2013

- ・ミャンマーからの研修生招聘再開
- ・アクションプラン作成合宿研修開始
- ・2008年度以来となる海外比較研修旅行を再開(～2015年度)

2014

- ・今井鎮雄理事長逝去(93歳)、水野雄二氏が2代目理事長就任
- ・事務所を神戸市中央区元町通から同区山本通に移転
- ・大阪女学院大学・短期大学と連携してスタディツアー開催(～至現在)・短期研修生招聘再開

2015

- ・ネパール大地震発生、研修生の村を対象に救援・復興支援を開始(～2019年度)
- ・国際協力エッセイコンテスト実施(～2017年度)
- ・インドネシアで牛銀行プロジェクト開始(至現在)

2016

- ・Facebookアカウントを開設
- ・法人会員制度創設
- ・元研修生たちが設立したグループ「PHDインドネシア」がインドネシアで法人格取得

2017

- ・ネパール研修生里親制度開始(～2019年度)

2018

- ・インドネシアで健康コンテスト開催(～2019年度)
- ・篠山ロータリークラブと牛銀行プロジェクト協働開始

2019

- ・兵庫県たつの市の三軒長屋を購入

28期・2010年度
グスティア インドラ(インドネシア)
ウルミラ・ライ・ダスワール(ネパール)
ミンクマリ・タマン(ネパール)

29期・2011年度
エリザ フィトリ(インドネシア)
ラメシュ・カジ・シュレスタ(ネパール)
パッサン・ラマ(ネパール)

30期・2012年度
アドリザル(インドネシア)
ラン・マヤ・タマン(ネパール)
アチャンマ・ラマ(ネパール)

31期・2013年度
ダリスマン(インドネシア)
プレム・ドジュ・ラマ(ネパール)

32期・2014年度
メラティ アフリダ(インドネシア)
ムク・マヤ・タマン(ネパール)

33期・2015年度
シャフルル(インドネシア)
カンチ・マヤ・タマン(ネパール)

34期・2016年度
リンダ エルニタ(インドネシア)
スリザナ・シャ・タクリ(ネパール)

35期・2017年度
マリアシルヴィアナ デフィ(インドネシア)
ミスラ・タマン(ネパール)

36期・2018年度
レニ グスティカ(インドネシア)
サビナビシンケ・ラムテル(ネパール)

37期・2019年度
ブットリ ダリア(インドネシア)
スシラ・パセル・サルキ(ネパール)

バックナンバー紹介



これまでの歩み  
黎明期

コロナ禍を受け、国内事業を開始。「共に生きる」試みは新しいステージへ。

# 2020～

## 2020

- ・コロナ禍で初の研修生招聘断念
- ・コロナ禍のネパール、ミャンマーを緊急支援
- ・事務所を購入し、移転(神戸市長田区)
- ・国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」開設、外国人支援を開始
- ・篠山ロータリークラブとインドネシア Mis タベ小学校に奨学金を給付
- ・NGO 神戸外国人救援ネットに加盟
- ・You Tube アカウント開設
- ・ミャンマーでクーデター発生、緊急支援を行う
- ・居住支援法人として指定される

## 2021

- ・コロナ禍で2年連続の研修生招聘中止
- ・登録支援機関として登録
- ・申請等取次者の承認を受ける
- ・国内研修生制度2.0開始
- ・JICA 関西 NGO 等提案型プログラム「兵庫発!多文化共生のための市民社会とビジネスセクター連携構築プログラム～外国人労働者とのより良い共生に向けて～」開始
- ・マンスリーサポーター制度発足
- ・職業紹介事業の許可申請
- ・設立40周年記念事業を実施

バックナンバー紹介



Think Globally,  
Act Locally  
Diversity &  
Inclusion

# これまでの実績

数字で見るPHD協会の実績と受賞歴

## 実績

設立1981～2021年までの  
おおよその総数字(延べ数)です。

20,835人

ボランティア数  
(日本語ボランティア含む)

2,265人

指導者数

59人

職員数

7,029人

会員数

44,186人

寄付者数

2,248人

滞在受入れ先

65人

理事会役員数

1,303人

スタディツアー参加者数

113,532人

講演会・交流会参加者数

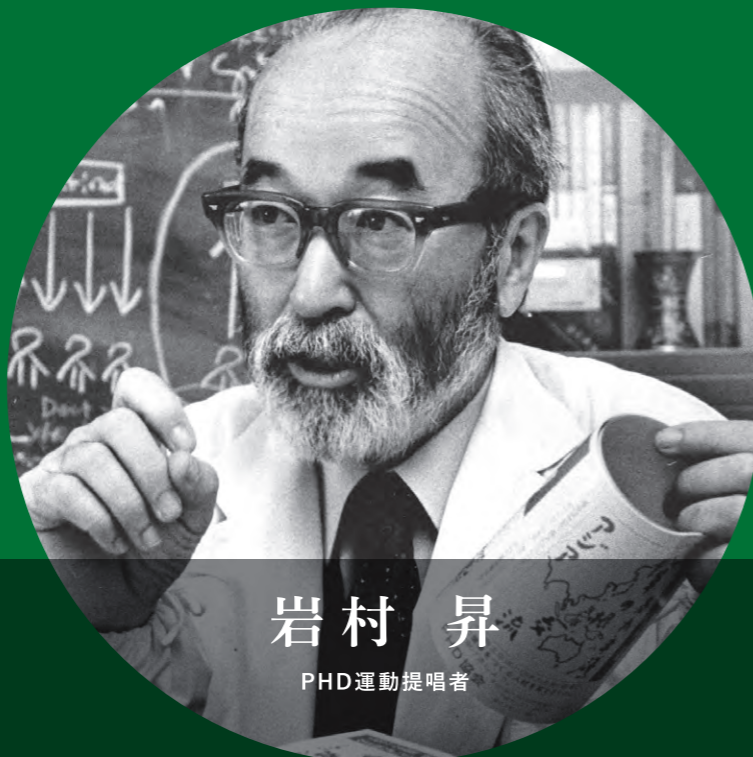
## 受賞歴

受賞年	受賞名	受賞者
1981	第1回ロータリー国際理解と平和賞	岩村 昇
1982	神戸新聞平和賞	
1982	兵庫県社会賞	
1988	国際交流基金、地域交流振興賞	
1990	神戸国際交流賞	
1991	毎日国際交流賞	
1993	マグサイサイ賞	岩村 昇
1995	第4回環境水俣賞	
1996	外務大臣賞	
1997	兵庫県功労者表彰	今井 鎮雄
2001	神戸新聞社社会賞	
2011	井植文化賞	
2013	かめのり賞	
2014	神戸キワニスクラブ社会貢献賞	

# 先達が残した足跡

PHD運動を支えてくれた人たちは  
数多くいる  
あなたも私もまたその一人だ

40周年の節目に、PHD運動を  
生み出し、土台を作って下さった  
3人の先達が遺してくれた  
言葉と行動を振り返る



岩村 昇

PHD運動提唱者

## 「忘れられる支援」

住民の所に行って、彼らの中に住んでその土地の気候、風土、習慣の中から生活の知恵を学び、しかし、危険な迷信はやめるようにすすめ、相手の身になって考え、相手のニーズに応じて自らを用意し、相手と共に生き、彼らが知っていることで始め、彼らが持っているものの上に築こう!!

最後に、君が今最上の指導者であるならば、将来その事業が完成した時に住民がこういうようになる、「この事業を完成したのは、われわれ自身だ」と。



今井 鎮雄

PHD協会初代理事長  
(1981年6月～2011年11月理事長)

## 「今井先生の在り方こそが 自分が目指していた医師の在り方」(岩村昇)

昭和34年の伊勢湾台風の時であった。名古屋の下町は水浸しになって大半は機能を失い、ボランティアの人々による復興と救援の作業を待っていた。軒まで達した水のため、屋根に逃げ上った人もいた。知多半島のはずれの漁村までトラックを走らせ、借りてきた船に衣料品や食料品を積み、屋根から屋根へと配って歩いたことを覚えている。

この時、親しくなった多くのボランティアの中に鳥取大学の医学部から来ておられた岩村博士がいらっしゃった。博士は「本当の医者とは病院で患者が来るのを待つのではなく、苦しんでいる患者の許に出かけて治療にあたるものだということがわかった」と当時話しておられた。



草地 賢一

元総主事  
(1984年11月～98年3月在職)

## 「草の根交流の意味するもの」

交流を通して自分たちの生活のあり方を点検し、次の世代にまで伝えておかねばならない私たちの知恵や宝を再確認する。(中略)このような意味においてPHD運動はアジア南太平洋の草の根の人々のために展開されているだけでなく、じつは日本人の側にも大きな収穫があるのだ。象徴的にいうならばPHD運動は51%がアジア・南太平洋の草の根の人々のため、49%は私たち日本人のためにある。

(中略)協力とか援助とかいわれる内容が実は大きな意味では「交流」のなかに含まれているという理解の上に立てば、「わかちあう」という互恵の精神が特に私たち北側の持てる者に必要になってくる。



# 次の10年、歩む道

「時代の変化に合わせて新しいことをやりなさい」(今井鎮雄)

「コロナ禍でも岩村昇ならじっとしていない」(岩村史子)

お二人の言葉を受けて、PHD協会はこれからも「草の根の人たちと共に生きる」ことを目指し活動を継続する。その具現化の一つが「国際協力・交流シェアハウスみんなのいえ」、国内で困窮する難民や外国人の方の居場所だ。

これからはアジア・南太平洋の草の根の人たちとの交流に加え、国内で困窮する外国人の方たちとも共に歩んでいきたい。



ミャンマー留学生の就労先と今後の相談



アウトリーチ活動の様子



ハローワーク同行、就職先を探す



食料配給

日本語指導の様子





## PHDの運動

「今まで自分の為にしか使っていなかった時間、  
知能、財の10%を‘アジア・南太平洋の  
草の根の人たちと共に、自分の生活の現場で、  
平和づくりPeace Development、  
健康づくりHealth Developmentを推進するために  
10%を捧げる人材’をつくる  
Human Developmentの為に捧げよう」

これは、‘生きることは分かち合うことである’という  
欲望追及とは逆方向の  
‘浄意の力学’による‘無償の奉仕活動’の波が  
アジア・南太平洋に広がっていく創始であります。

岩井昇



公益財団法人PHD協会

〒653-0836

神戸市長田区神楽町3-7-4

Tel.078-414-7750

Fax.078-414-7611

[www.phd-kobe.org](http://www.phd-kobe.org)

